

# みえんしす 50号



1P▶2P 特集 第41回企画展  
「発掘された日本列島 2025」



3P▶4P 特集 地域展示  
「王権東へ 伊賀の古墳時代」の魅力語る



ミュージアム  
レポート  
MUSEUM REPORT

5P 企画展で名張の資料を  
調査・展示しました



ミュージアム  
レポート  
MUSEUM REPORT

6P 企画展をもっと楽しんでもらうために



特集

## 第41回企画展

# 「発掘された日本列島2025」



### 発掘された日本列島展開催

「発掘された日本列島展」は全国の遺跡で行われている発掘調査の成果を披露しようと、文化庁が平成7(1995)年から毎年全国各地で開催している巡回展です。MieMuでの開催は、平成29(2017)年度の第17回企画展「発掘された日本列島2017」に続いて2回目となります。

国内にはおよそ47万か所も遺跡があつて、毎年8千件ほど発掘調査が行われています。その中から特に注目される発見を紹介しようと始まったのがこの展覧会です。今回の企画展ではおよそ480点の出土品を展示します。

過去にこの巡回展で展示した出土品が、重要文化財や国宝になったことも少なくありません。平成13(2001)年度に行われた「発掘された日本列島」(東京都江戸東京博物館・田原町博物館・大阪歴史博物館ほか)では、三重県松阪市で発掘された三重県宝塚1号墳出土埴輪が出品されています。これらの品は、令和6(2024)年に国宝に指定されました(今回はレプリカを展示)。

展示は『我がまちが誇る遺跡』と『新発見考古速報』という2つの中核展示と、『遺跡から読み解く多様な歴史文化』という特集展示によって構成されています。

### 全国の「我がまちが誇る遺跡」

『我がまちが誇る遺跡』は、継続的な発掘調査の成果に基づく地域研究によって明らかになった「地



写真1 特別史跡 福井洞窟 (現地の様子)

域の特性や魅力」に目を向け、発信するものです。今回は、長崎県佐世保市の国内最古の特別史跡である福井洞窟(写真1)を中心に紹介する「洞窟王国佐世保」、大正13(1924)年、滋賀県の琵琶湖底より複数の土器が引き揚げられた葛籠尾崎湖底遺跡の発見以来の調査実績を紹介する「琵琶湖の水中遺跡」、古墳時代には上毛野国と呼ばれた群馬県の、大小併せて1万3千基を超える古墳が築かれた状況を紹介します。「東国千年の都 古墳から古代へ」と3つの展示があります。

### 『新発見考古速報』

『新発見考古速報』は、縄文時代から近世まで、近年広く注目を集めた遺跡を取り上げ、速報として展示を行うものです。今回は全部で10か所の遺跡を取り上げています。

特に注目されている貴重な出土品としては、熊



写真2 土偶 縄文時代  
上粕屋・秋山遺跡  
神奈川県伊勢原市



写真3 家形埴輪と囀形埴輪 古墳時代 上官塚遺跡  
熊本県上益城郡嘉島町

本<sup>かみましき</sup>県上益城郡嘉島町<sup>かしま</sup>の上官塚遺跡<sup>じょうかんづか</sup>(写真3)から出土した、古墳時代の住居を表した家形埴輪とその囲いを表した<sup>かこいがた</sup>囲型埴輪です。家形埴輪は亡くなった人の魂が宿る場所としてつくられたものです。家と囲いがセットとなるものは珍しく、九州では2例目となる資料です。特に注目されているのが、住居と囲いに線で描かれた円で、鏡を吊り下げている様子を表現したと考えられています。当時、鏡は魔除けなどに使われる非常に貴重な品でした。

また、大阪府羽曳野市・藤井寺市にまたがる<sup>みださきのみがし</sup>陵東遺跡から発掘された埴輪(写真4)も展示されます。

その他、縄文時代では上粕屋<sup>かみかすや</sup>・秋山遺跡<sup>あきやま</sup>(神奈川県伊勢原市)(写真2)、前田遺跡<sup>あいら</sup>(鹿児島県始良市)、弥生時代では顕孝寺遺跡<sup>けんこうじ</sup>(福岡県福岡市)、高畑遺跡<sup>たかばたけ</sup>(福岡県福岡市)、高橋貝塚<sup>たかはし</sup>(鹿児島県南さつま市)、古代では、曾我墓所<sup>そがぼしよ</sup>遺跡<sup>なかがわら</sup>(新潟県新潟市)(写真5)、中近世では、子易<sup>こやす</sup>・中川原遺跡<sup>なかがわら</sup>(神奈川県伊勢原市)、御土居跡<sup>おどい</sup>(京都府京都市)の資料が展示されます。

### 特集展示「遺跡から読み解く多様な歴史文化」

あわせて、特集展示『遺跡から読み解く多様な歴史文化』も見ることができます。特集展示は、さまざまな視点から遺跡や遺物を見ることにより浮かび上がる、個性豊かな日本の歴史文化をパネルで紹介するものです。今回は、『埴輪列の世界』と題して、古墳に立て並べられた埴輪の配列の通時的な変化や時期的・地域的な特徴について、代表的な13の古墳を取り上げて展示するものです。



写真4 男子埴輪  
古墳時代 陵東遺跡  
大阪府羽曳野市・藤井寺市

### 地域展示「王権東へ 伊賀の古墳時代」と講演会

なお、三重県独自の展示として、三重県埋蔵文化財センター、伊賀市教育委員会、名張市教育委員会と連携した地域展示を開催します。また、展示期間中のイベントとして伊賀市教育委員会文化財課課長の笠井賢治さんによる講演会や、学芸員によるギャラリートークがあります。どうぞご参加ください。

#### 宇河 雅之

学生時代は律令期の葬送儀礼について調べていました。特に持統太政天皇の火葬採用の理由とその背景は、現在も研究テーマとしています。



### 第41回企画展「発掘された日本列島2025」

三重県総合博物館3階企画展示室  
令和7年10月18日(土)～12月14日(日)

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
時 間：9時～17時(最終入場16時30分)

#### 【料 金】 企画展のみ

一般800(640)円 学生480(380)円

高校生以下 無料

#### 基本展示とのセット券

一般1,050(840)円 学生630(500)円

高校生以下 無料

※( )内は前売りあるいは団体料金

#### 記念講演会「東西文化の境界の地 伊賀 古墳から寺院へ」

講師：笠井賢治さん(伊賀市教育委員会文化財課 課長)

令和7年11月16日(日)13時30分から15時まで

#### 事前申し込み (10月26日(日)必着)

詳しくはHPをご覧ください

#### ギャラリートーク

令和7年10月19日(日)、11月2日(日)、16日(日)、30日(日)、  
12月14日(日)、各日11時から・14時から各回30分程度



写真5 横型環状瓶 奈良時代 曾我墓所遺跡 新潟県新潟市

# 「王権東へ 伊賀の古墳時代」の魅力語る



笠井賢治さんにインタビュー

—第41回企画展「発掘された日本列島2025」の地域展示「王権東へ 伊賀の古墳時代」でご協力いただいている伊賀市教育委員会文化財課課長、笠井賢治さんにお話を伺いました。

—早速ですが、伊賀地域にスポットをあてた地域展示の見どころを教えてください。

**笠井**：今回の展示の肝は、東西の文化の分水嶺としての鈴鹿山脈・布引山地の西側に位置する伊賀地域が、古墳時代から飛鳥時代にかけて、王権の伸長と仏教文化が展開していく様子を実感できる展示だという点にあります。伊賀と伊勢との文化の違いについては、例えば現在でも、正月に食べる餅の形や主な通勤先のちがいなど、伊賀地域は大阪・奈良・京都との結びつきが大変強いことをご承知の通りです。そして、それは古墳時代や飛鳥時代、奈良時代でも同様でした。ヤマトに王権が誕生したのち、王権が東へ拡大する際に伊賀地域は大変重要な役割を果たしていました。

—今からどれくらい前のことでしょうか。

**笠井**：ちょうど4世紀末から5世紀初頭、時代というと古墳時代、今から1600年ぐらい昔のこととなります。

—古墳というと前方後円墳や円墳、方墳といった形を昔歴史の時間に習った覚えがありますが、伊



写真1 鉄製の甲冑 (わき塚1号墳出土、三重県指定有形文化財)

賀地域にはどんな古墳があるのですか。

**笠井**：伊賀地域には前方後円墳が複数基存在する地域がいくつかあります。そのひとつが伊賀市と隣接する名張市の美旗で、ここは美旗古墳群と呼ばれています。企画展のポスターやチラシに掲載した鉄製の甲冑は、美旗古墳群の北端伊賀市内に位置する、わき塚1号墳から出土したものです(写真1)。鉄製甲冑は県内でも珍しいですが伊賀地域では2件の出土例があります。

—ヤマト王権をあらわす前方後円墳と鉄製甲冑という組み合わせから、王権の東進の雰囲気伝わってきますね。ちなみに、美旗古墳群は大部分が名張市にありますよね。

**笠井**：わき塚というのは、近接する前方後円墳の殿塚古墳に付属する墳墓、陪塚であることからきた名称です。わき塚1号墳は昭和36(1961)年の集中豪雨で地滑りを起こし、撤去せざるをえない状況になりました。ちょうど近鉄大阪線沿いです。

—すると、場所は伊賀神戸駅(伊賀市)を大阪に向けて出発して美旗駅(名張市)に着くまでの上り坂の線路沿いにあったということですね。

**笠井**：ちょうど、坂を上りきる手前の左側にわき塚はありました。こちらは消滅してしまったのですが、前方後円墳の殿塚古墳は現在も姿をとどめています。—美旗古墳群では大きな前方後円墳を身近で見ることが出来ますよね。

**笠井**：大きな前方後円墳としては三重県内で2番目の大きさを誇る長さ142メートルの名張市の馬塚古墳(写真2)がありますし、名張市の赤井塚古墳なども有名です。これらの現地を巡ってもらうのもよい



写真2 馬塚古墳(国史跡)

でしょう。なお、大きな前方後円墳は6世紀になると伊賀ではなくて尾張(現在の愛知県)で見られるようになります。どんどん東へ東へと王権が伸長していることがわかるわけです。

—現在、旧伊賀国は伊賀市と名張市に分かれていますが、これは平成16(2004)年の平成の大合併以降のこととなります。古墳時代もこのような地域分けはあったのでしょうか。

**笠井**：実は、これも前方後円墳などの分布をもとに地域の姿を考えることができるとされています。現在の伊賀市の府中地区には、三重県内最大の全長188メートルの御墓山古墳などいくつかの前方後円墳があります。ここは、奈良時代の地域の呼び名である「郡」でいうと阿拝郡となります。また、山田郡には全長53メートルの寺音寺古墳などがあります。また、伊賀郡には石山古墳が、伊賀郡と名張郡との境には美旗古墳群があります(図参照)。

—かつての郡と古墳時代の豪族の分布と対照させて考えてみると、面白いということですね。

**笠井**：古墳だけではなく、古代寺院跡もあわせて考えてみるとより一層わかりやすいと思います。阿拝郡には三田廃寺が、山田郡には鳳凰寺跡が、伊賀郡には財良寺跡が、名張郡には夏見廃寺があります。大化2(646)年の薄葬令により、墳墓の築造に規制がかかり、また、新来の仏教文化の浸透とともに、寺院建立へと豪族の関心が移ったと考えられています。



図 伊賀市周辺の古墳と古代寺院跡の分布図

す。ここでも、三田廃寺は法隆寺、財良寺跡は栗原寺(奈良県桜井市)の瓦と同じ范型を使って製作されたのではないかとされているように、大和とのつながりは大変濃厚なことがわかります。

仏教との関わりは、御墓山窯跡とよばれる古代の焼物工場ともいうべき遺跡の遺物からもうかがえます。宮殿形陶製品(三重県指定有形文化財)(写真3)も今回出品されますが、これはサイズや細かい部分の造形が法隆寺の玉虫厨子に近く、中には小型の仏像が安置される予定であったと考えられています。—ついに、教科書などでいう飛鳥から奈良時代に入っていくわけですね。

**笠井**：奈良時代になると、国には国司がおかれるようになります。古墳を築造し、古代寺院を建立した地域の豪族は、中央から派遣されてきた国司の元に組み込まれていきます。伊賀国の役所跡が伊賀国庁で、現在史跡整備を進めています。

—今回さまざまなお話をさせていただきましたが、展示を見学するにあたって、なにか覚えておくことなどありましたら教えてください。

**笠井**：今回の展示のタイトルは「王権東へ 伊賀の古墳時代」ですが、伊賀地域は、弥生時代から奈良県で出土する土器に近い形のものが出土し、早くから奈良方面との結びつきが強かったことが分かっています。それがヤマト王権の東への伸長により、東国進出の基点となり、以後仏教文化も早い時期からもたらされました。そうした地域の時代の変遷を知っていただければ、展示をより楽しく見ていただけるかと思います。どうぞ、地域展示をお楽しみください。



写真3 宮殿形陶製品(御墓山窯跡出土、三重県指定有形文化財)

## 企画展で名張の資料を調査・展示しました

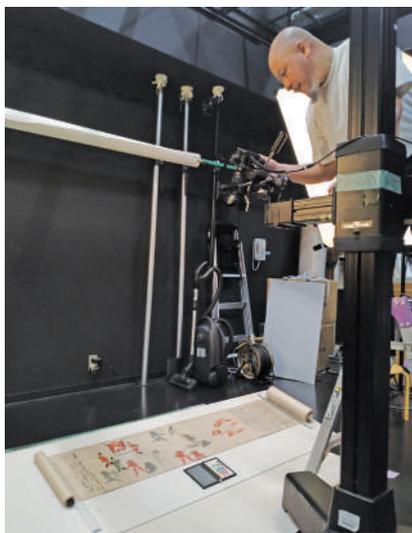


北野天神縁起

第40回企画展「地獄へようこそ 鬼と亡者と閻魔の世界」では、県内各地から地獄や極楽に関する資料をお借りしました。中でも名張市からは、宇流富志禰神社と杉谷神社から貴重な所蔵資料をお借りすることができました。

宇流富志禰神社所蔵の能面「瘦男」は、三重県指定有形文化財「宇流富志禰神社能・狂言面」の内のひとつです。地獄に堕ちて苦しんでいる男の霊を演ずる役が着ける面で、目が落ちくぼんで頬が痩せこけ、頬骨が出ている点が特徴とされます。もとは名張藤堂家の所蔵で、明治時代に宇流富志禰神社へ寄進されたようです。江戸時代は同神社の興玉神社能楽堂や名張藤堂家邸内などで、能楽が演じられました。

杉谷神社所蔵の「北野天神縁起」は、上・中・下巻の3巻からなり、またその奥書から応永26(1419)年に制作奉納されたことがわかるもので、研究者の間では杉谷本と呼ばれ知られています。昭和35(1960)年に三重県指定有形文化財に指定されました。縁起文が「王城鎮守の神々おほくましませど北野



撮影作業

宮のことにすぐれて」で始まる最初期の形態を示す作例です。修験者の日蔵上人が地獄を巡る説話は、中巻6段に描かれており、人物や建物の配置、構図などが親しみやすい素朴な画法であらわされています。杉谷本は、制作年代は比較的新しいものの、天神縁起絵としては初期の図様を写したと考えられるもので、天神縁起絵の展開を考える上で重要な作例です。MieMuでは、絵巻を展示させていただく機会に、所蔵者の承諾を得て全巻の写真撮影を実施しました。6000万画素以上のデジタルカメラを用いて、できるだけ高精細な画像で調査記録を残し、保管することとしました。



能面(瘦男)

2つの文化財は名張市はもとより県内でも注目されるもので、こうした地域の大切な文化財に関する写真や調査の蓄積は、博物館にとって主要な役割りの一つです。

### 瀧川 和也

美術の歴史、特に日本の仏像が専門で、三重を中心にこれまで調査・研究を行ってきました。



# 企画展をもっと楽しんでもらうために

## 展示会を楽しく見せるために

第40回企画展「地獄へようこそ 鬼と亡者と閻魔の世界」では、さまざまな地獄に関する資料を展示しました。主に展示されたのは掛軸や彫像などの資料が多いですが、内容は子どもには難しい。けど、せっかくの夏休みだし子どもにも見てほしい！ということで、大人も子どもも楽しんでもらえるように行った工夫を少しご紹介します。

## 工夫した配布物と展示の導入部

今回の展示では「地獄めぐりMAP」を作成し、展示の導入部に設置して誰でも持って帰れるようにしました。こちらのマップにはこれだけは見てほしいという資料の紹介をしています。また地獄という内容のため、残酷な描写のある資料を無理に見なくてもいいように、展示されている場所が分かるようにもしました。

また、今回の展示では、さまざまな寺社のご協力を得て今も大切にされている資料をお借りして展示しました。そのため資料の写真撮影はご遠慮いただきましたが、せっかく展示を見に来たのなら記念撮影ができる場所がほしい。ということで展示室に入ってすぐのところに閻魔庁を再現したフォトスポットを作成しました。死後、閻魔さまのお裁きをうけているような写真が撮れます。

その隣の壁には、津市にある真教寺の閻魔堂を実物大で再現しました。中央にある穴からお堂をのぞいてみると、大迫力の閻魔さまを見ることができます。



フォトスポットと実物大の真教寺閻魔堂

どちらも大きさや見やすさ、臨場感などいろいろな面を検討してこのような形になりました。エンマ

堂前のバス停は三重交通株式会社にご協力いただいて実物大で製作した学芸員こだわりの展示です。

## 子どもも楽しめるイベント

関連イベントも楽しんでほしい！ということで子ども向けのイベントも企画しました。

そのひとつが、『ナイトミュージアム』です。こちらは閉館後の企画展示室で、懐中電灯を使って観覧します。昼間に見る時とちがって、展示照明がないので雰囲気ガラッと変わります。なかでも彫刻の目には「玉眼」という技法<sup>ぎよくがん</sup>で水晶が使われているのですが、その目がキラッと光るのでとても印象的です。こちらのイベントは大変たくさんの申込がありましたので、当初2回の予定でしたが5回に増やして、より多くの方にお楽しみいただけるようにしました。

大人も子どもも、どんな人でも楽しめるものを考えるのはなかなか難しいですが、MieMuではこれからも多くの方が楽しめる企画を考えていきたいと思えます。



ナイトミュージアムの様子

## 稲垣 玲弥

子どもを対象とした教育普及を専門にしています。子どもたちが博物館でどんなものに興味をもつかということに関心があります。



# MieMu からのお知らせ

## 利用案内

### ■ 利用時間

午前9時～午後5時  
(基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉館30分前まで)

### ■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、  
年末年始(12/29～1/3)、  
その他別途定める日

### ■ 観覧料

基本展示室 一般 520円(410円) 学生 310円(240円)  
高校生以下無料 ※( )内は団体料金

企画展示 展覧会ごとに別途料金を定めます。  
詳しくは各展覧会のお知らせをご覧ください。

年間パスポート 一般 1,670円 学生 1,040円

※障がいをお持ちの方のご見学についても、お気軽に館内スタッフへご相談ください。  
お電話での事前のご相談も承ります。



## MieMu | みえむ | 三重県総合博物館

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061  
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp  
HP <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>  
X (旧Twitter) @mie\_pref\_museum  
facebook @mie.pref.museum  
Instagram miemu2014  
YouTube <https://www.youtube.com/@MieMu>



### 三重県総合文化センター

#### そうぶんの月灯り2025 —アートの庭—

そうぶん秋の竹あかりが、今年から新しい屋外アートイベントにリニューアルします。今年のテーマは「えがおの光 魅せる影」。美術家高橋匡太さん考案「ひかりの美」が、フレンテみえ裏にある日本庭園を、紅葉とともに優しい光で彩ります。週末には月灯りカフェや参加型ワークショップなどの関連イベントも開催予定。茶室では不思議な影アートも。秋の夜長、そうぶんの裏庭で「ゆったり散歩」しませんか？

会 場 三重県総合文化センター内  
日本庭園および茶室(雨天開催)

観覧料 無料

日 時 11月22日(土)～12月7日(日)  
16時～19時(金～日は20時まで)

URL <https://www.centermie.or.jp/event/detail/55514>

#### 問い合わせ先

三重県総合文化センター総務部  
津市一身田上津部田1234  
Tel 059-233-1105 Fax 059-233-1106  
E-Mail : [soumu@center-mie.or.jp](mailto:soumu@center-mie.or.jp)

三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。



### 三重県立図書館

#### 文学コーナー

三重県では、国学をはじめ和歌、俳諧など多様な形式の文学が豊かに育まれてきました。これらの文学の歩みを紹介するために、三重県立図書館では図書館が入っている建物の2階に文学コーナーを設置しています。常設展では、三重県での文学の歩みを年表で紹介するとともに、江戸川乱歩の自筆色紙などの資料を展示しています。ぜひ三重県の豊かな文学とその足跡に触れてください。なお、常設展をお休みして、特別展示やその準備を行っている場合がございます。三重県立図書館ホームページの「お知らせ」にてご確認ください。



#### 問い合わせ先

三重県津市一身田上津部田1234  
Tel 059-233-1180 Fax 059-233-1190

開館時間: 9時～19時

休館日: 月曜日(祝日にあたる日は開館、翌日閉館)、月末(土日祝日の場合は、その直前の平日)、年末年始、特別整理期間



### 三重県立美術館

#### 没後90年 橋本平八展

三重県立美術館では、三重県伊勢市出身の彫刻家、橋本平八(はしもとへいはち)の没後90年を記念する展覧会を開催します。15年ぶりの回顧展となる本展では、代表作と資料から生涯をたどり、橋本平八の創作世界に迫ります。



橋本平八《猫》1922年  
三重県立美術館蔵

期 間 10月13日(月・祝)まで

観覧料 一般1,000(800)円 学生800(600)円  
高校生以下無料  
※( )内は前売りおよび20名以上の団体料金

#### 問い合わせ先

三重県津市大谷町11  
Tel 059-227-2100 Fax 059-223-0570

開館時間: 9時30分～17時  
(入館は午後4時30分まで)

休館日: 月曜日  
(祝日にあたる日は開館、翌日閉館)、年末年始



### 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を“特定歴史公文書等”として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご利用いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示も行っています。詳しくはHPをご覧ください。

URL <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm> 問い合わせ先 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班  
三重県津市一身田上津部田3060 総合博物館3階 Tel 059-253-3690 Fax 059-229-8310



### 三重県総合博物館情報誌「みえんしす」

「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「miensis=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであられました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日: 2025年9月15日(禁・無断転載)  
企画・編集・発行: 三重県総合博物館  
印刷: 有限会社ミフジ印刷